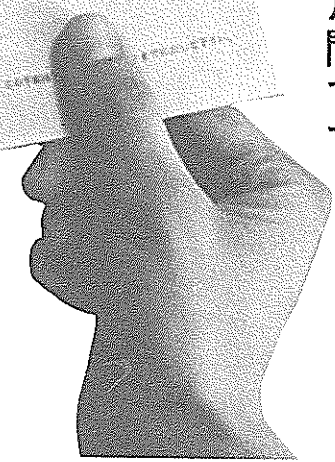
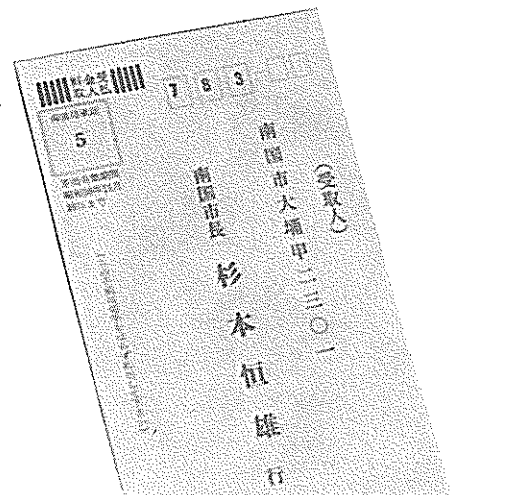


12月は市長へ手紙を出す月間です



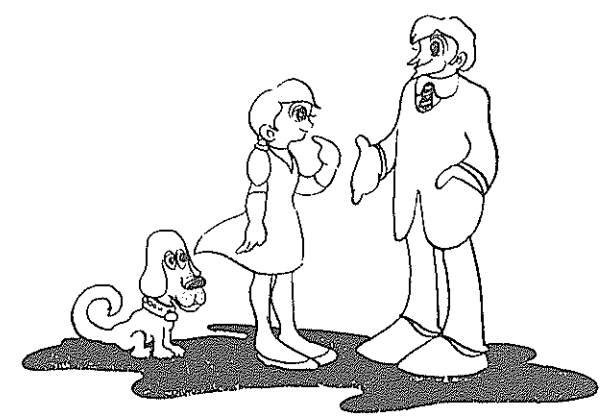
切手をはらずにポストへ

できるだけ12月25日までに

かくれた市民の声を市政に生かそう——。市は
この十二月を「市長に手紙を出す月間」にして、全世帯
からの「市長への手紙」をまわっている。
できるだけ12月25日までに出してほしいとのこ
とだが、どんな結果がでるか、注目されている。

市長への手紙

かくれた市民の
生の声を市政に
反映 ……………



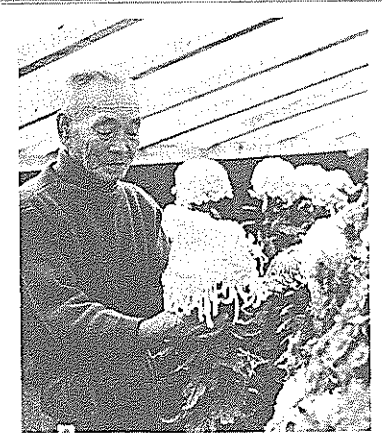
花子・十二月が「市長へ手紙を出す月間」になったそうすね。
太郎・うん、市民のみなさんから「市長へ」には、いろんな手紙が出されているよだけどもね。
ポチ・かくれた市民の「生の声」を聞こうということかな。
太郎・市民の声を議員さんや地域の代表者、職員などを通じて、いろんな方法で市政の中に生かされているけど、でも、市民の声は「聞きすぎ」ということがないからね。
花子・市民にはいろいろなタイプがあるでしょう。市役所に来て
も堂々と自分の意見を述べられる人もあれば、いいことがあっても思うようにいえない人もあるでしょうし。
ポチ・不平不満は山積みしていても、かけてこそこそいったり、酒のいきおいを借りないといえない人もいるんじゃないかな(笑い)
花子・なかなか自分の意見を自由にいえるというのは大変なことでしょうね。思いきって市役所をなすねて来て、様子が十分わからなかったり、あっちこちをたらい廻しになったり。
太郎・市役所の側にも問題があ

るけどね。できるだけ多くの市民の生の声を聞いて、「これからの市政」に生かしたいというのが市長さんの考えのようだね。
ポチ・行政や政治というものが市民や国民にとっては、とても遠い「雲の上」のように考えられていたけどな。
花子・月並みな表現だけど「市民の市民による市民のための市政」という言葉があるでしょう。みんな「市民のため」っていうけど、「市民の、市民による市政」

きとした市政をしたいといっている。
花子・市民の要求や要望は、国県のやるべきことで市だけではどうにもならないことや、市のこともできずできるものではないものがあるでしょうけど、「一つ一つ市民とともに考え、悩んで「市民が主人公」の市政をすすめてほしいものですね。」
ポチ・ところで「市長への手紙」というのは、くわしくは、

区の連絡員さんを通じて「市長への手紙」の用紙と封筒を配ることにしているがね。
花子・その用紙に書いていたんだけどことになるのね。
太郎・うん、その用紙に市民の自由な意見や要求を聞いて、市長へてに出してもらうんだ。
とくに、道路の舗装や水路の改修などのときは、略図や位置図などをかいてもらおうとわかりやすいね。
花子・そして、配っていただいた封筒に入れて、切手をはらずにポストに入れればいいわけだね。
太郎・うん、あらかじめ郵便局で承認をもらっているんで、切手ははらなくていいんだ。
ポチ・いろいろな要求があつて、大変なことだね。
太郎・はじめてのことなので、市民が自由に、思ったことを出してもらえばね。南国市の未来像づくりに取り組んでいるときなので、「これからの南国市は、こんなまちになってほしい」というような全市的な意見もぜひ出してほしいものだね。ではこの辺で。

自慢の種「国華光琳」

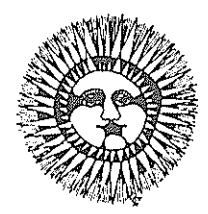


わが町を生きる

市役所玄関を入ると見事な菊の花が目にとまります。少しで
も市役所を明るく、と前浜の甲中峯
次さんが展示してくれているもの。
峯次さんと「
ろの庭にはい
ろんな菊が咲
いている。そ
う、十年前ぐ
らいでしたら
うか。栽培を
はじめたのは
「美しく咲か
せる苦勞を
聞くと「花を
大きく育てるには肥料をやらない
いかん。しかしやりすぎると花
ぐさりがくるし、少ないと貧弱
になる」そこがむつかしいそう
だ。今年花が咲きかけて虫が
ついた。蕾のうちなら消毒でき
るが、花が咲き出すと消毒はひ
かえないといけないいま。
峯次さん、今年八十四歳。明
石、東京方面まで菊を見に足を
のばす。その旅で手に入れた国
華光琳という新種が今年咲いた
「春に病気で悩まされて二度ほ
ど入院して今年ばかり手入れが
できなかつたが」。ええ、も
うすっかりよくなりました。」

あなたの声を市政に生かそう 市民と市長の対話集会

市政をつくるのは、あなたです。市長を聞いて、あしたの南国市を一語に話し合しましょう。会の催しを希望の地区の代表の方が、ご連絡ください。企画財政課秘書係



きょうの話題・あすの話題